ウ　(2)の「Ｂ地球・自然」のイの「天気の様子」の(ｱ)の㋐については，２つのデータを同時に扱うようなグラフや表は扱わないこと。

3　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，理科の学習過程の特質を踏まえ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うなどの，問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図ること。

イ　各段階で育成を目指す思考力，判断力，表現力等については，当該段階において育成することを目指す力のうち，主なものを示したものであり，実際の指導に当たっては，他の段階で掲げている力の育成についても十分に配慮すること。

(2) ２の(3)の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

ア　実験を行うに当たっては，身の回りのことや生活に関わる簡単なものを取り扱うこと。

イ　生物，天気などに関する指導に当たっては，自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに，生命を尊重し，身の回りの自然環境の保全に寄与する態度を養うようにすること。

ウ　天気などに関する指導に当たっては，災害に関する基礎的な理解が図られるようにすること。

エ　理科で学習することが様々な職業などと関係していることにも触れること。

オ　博物館や科学学習センターなどと連携，協力を図ること。

(3) 観察，実験などの指導に当たっては，事故防止に十分留意すること。また，環境整備に十分配慮すること。

〔音　楽〕

1　目　標

表現及び鑑賞の活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに，表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽表現を考えることや，曲や演奏のよさなどを見いだしながら，音や音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3) 進んで音や音楽に関わり，協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに，様々な音楽に親しんでいく態度を養い，豊かな情操を培う。

2　各段階の目標及び内容

○１段階

(1) 目　標

ア　曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに，音楽表現をするために必要な歌唱，器楽，音楽づくり，身体表現の技能を身に付けるようにする。

イ　音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや，音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。

ウ　進んで音や音楽に関わり，協働して音楽活動をする楽しさを感じながら，様々な音楽に触れるとともに，音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

(2) 内　容

A　表　現

ア　歌唱の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し，歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。

(ｲ) 次の㋐及び㋑について気付くこと。

㋐　曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わり

㋑　曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり

(ｳ) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の㋐から㋒までの技能を身に付けること。

㋐　範唱を聴いて歌ったり，歌詞を見て歌ったりする技能